

学校と地域の情報共有の場に、公民館職員が参加

～中学校区での目指す子ども像の共有により、新たな子どもに関する公民館主催講座開設へ～

津山教育事務所では、学校と地域の連携・協働を推進する観点から、地域側にも子どもたちのよりよい育ちのための多様な学びの場を設定し、子どもたちが選択して学べるようにしたいと考えています。

そこで、地域住民の最も身近な学習拠点である公民館職員が、中学校区における学校と地域の情報共有の場に参加し、目指す子ども像の共有や学校のニーズ把握等を行うことで、情報共有をより充実させる仕組みづくりを提案しています。

今号は、小中学校の教職員へアンケート調査を実施し、ニーズ把握をした上で、新たな「子どもに関する公民館主催講座」を計画中の、新庄村地域学校協働本部(地域教育協議会)の取組を紹介いたします。

アンケート実施

『子どもに関する公民館主催講座に求める企画・テーマ』(小中学校へ)

ニーズ把握

【アンケート結果】

- ・クリスマスリース作り
- ・郷土料理作り
- ・草木染め
- ・郷土学習の充実
- ・アクリル毛糸でタワシ作り
- ・ダンス
- ・ヨガ
- ・手芸教室
- ・科学教室
- ・マスク作り など

(公民館講座の原案検討)

計画

『郷土の魅力を感じる3世代交流ウォークラリー』(案)
(郷土学習・地域住民との交流を通して郷土愛を育む。)

計画

- ①開催時期
- ②コース
- ③スケジュール等について検討

(地域学校協働本部で検討・承認)

計画



(学校・地域へ開催要項の周知)

実施予定

『郷土の魅力を感じる3世代交流ウォークラリー』(案)
(郷土学習・地域住民との交流を通して郷土愛を育む。)

■ 新たな「子どもに関する公民館主催講座」を開設するにあたって、公民館職員から一言メッセージ♪

コロナ禍において講座やイベントの自粛が進む中でも、子どもたちが体験等を通して学ぶ機会を確保していきたい。そして、その充実を図っていくためには、これまで以上に地域人材との連携・協働を取り入れていかななくてはならない。

子どもの学び、子どもと地域の交流を止めないため、ICT(情報通信技術)の活用も含めてさまざまな可能性を検討していきたい。

(小泉 潮)



津山教育事務所担当者と新庄村公民館職員で原案検討

リーフレット「四季巡る桜並木の凱旋門」(がいでせん桜)の活用